

令和2年度 諸塚村立諸塚小学校

自己評価及び学校関係者評価書

作成日 令和3年 2月1日（月）

作成者 諸塚村立諸塚小学校

諸塚小学校学校関係者評価委員会

令和2年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【1 学力向上】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 学習指導法の工夫・改善 ○ 授業力の向上 ○ 少人数のよさを活かした個に応じた指導	① 授業では「めあて」「まとめ」、「習熟や定着を図る活動」の適切な設定がなされたか。(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童 98% 保護者 98% 教師 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> どの学級においても、児童の学習意欲を高める工夫をよくされている。 分かりやすい教材・教具を工夫されており、学習内容の定着につながっていると感じた。 今後も新しい指導法を積極的に取り入れ、児童の学力向上に努めていただきたい。 	A	整合性のある「めあて」と「まとめ」を意識した授業を実践し、学習内容の確実な定着を図る。
	② 担任の話や説明は分かりやすいか。(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童 100% 保護者 98% 教師 100%	A				教師相互の授業参観や日常的なOJTの取組を継続し、教師のスキルアップを図る。
	③ 担任は一人一人を大切に、個に応じた指導をしているか。(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童 92% 保護者 100% 教師 100%	A				今後も一人一人の実態を把握し、個に応じた手立ての有効性を確実に評価しながら改善していく。
	④ 各学年の単元末テストの国語・算数・理科・社会の平均正答率85%以上の児童が80%以上を目指す。	国語 86% 社会 81% 算数 72% 理科 86%	A				主体的・対話的な学習を継続するとともに、習熟の時間を確保し確実な定着を図る。
(2) 家庭学習の定着 ○ 家庭学習一覧による家庭との連携 ○ 確実な見届け	① 進んで家庭学習に取り組んでいるか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童 100% 保護者 82% 教師 79%	B	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症拡大による臨時休校中にメディアを与えすぎた面もあったようだが、子どもたちは家庭学習にしっかり取り組んでいるようである。 	A	家庭学習の課題を明確に与えることで、主体的に取り組む態度の育成を図る。
	② 担任は家庭学習をしっかり見届けているか(3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児童 100% 保護者 98% 教師 100%	A				今後も家庭と連携しながら称賛・見届けを行い、やる気をもって取り組ませる。
(3) 読む、書く活動の推進 ○ 読書活動推進や新聞活用	① 2学期末までの読書冊数において、低学年150冊、中学年75冊、高学年3750ページ以上に達する児童の割合が80%以上を目指す。	低学年 47% 中学年 45% 高学年 58% 全校 50%	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 達成状況の数値よりも、児童が日頃から読書を楽しんでいることを評価したい。 	B	魅力ある図書館づくりを心掛けるとともに、読書意欲を高める手立てを工夫していく。

○ 作文、日記指導の充実	② 家庭読書に進んで取り組んでいるか（児童・保護者A・B評価それぞれ90%以上）	児童 85% 保護者 66%	B	・ 家庭において、大人も読書に親しむことで、より子どもたちの読書意欲を高めたい。	家庭読書の課題を与え、家庭と連携した取組で充実を図る。 今後も継続して、作文・日記等に取り組ませ、書力の育成を図っていく。
	③ 作文・日記などの書く活動に取り組んでいるか（3者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上）	児童 97% 保護者 70% 教師 100%	A		

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和2年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【2 豊かな心の育成】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 豊かな心の育成 ○ 学級経営の充実による望ましい人間関係の醸成 ○ 教育活動全体を通じた指導	① 学級は「いじめ防止プログラム」の実践を通して望ましい人間関係ができているか（3者アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% 保護者 98% 教師100%	A	A	・ 異学年グループでの集団登校や、縦割りでの教育活動や遊び等を通して、より全校児童のかかわりが増え、いじめのない学校生活が送れていると考える。 ・ 学校・保護者・地域との信頼関係が構築されていることも、高い評価につながっていると感じる。	A	教師が児童と向き合う時間を確保することで、児童と教師の信頼関係を構築し、いじめのない学級づくりを行っていく。
	② いじめのない楽しい学校生活が送れているか（児童・保護者・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% 保護者100% 教師100%	A				全職員一丸となって、声掛けや称賛を積極的に行い、児童一人一人の自己存在感を今後も高めていく。
	③ 教育相談や保護者の相談に十分対応しているか。（児童・保護者・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上）	児童100% 保護者100% 教師100%	A				今後も学期ごとに保護者向けアンケートを実施することで、教育相談の充実を図っていく。
(2) 基本的な生活習慣の定着	① 生活のリズムが整っているか（児童・保護者アンケ	児童 96% 保護者 98%	A	B	・ 全体的にあいさつはよくなっているが、	B	今後も養護教諭・担任・保護者との連携を図りな

○ 「早寝早起き朝ご飯」の生活リズムの確立 ○ あいさつ指導の徹底	① 一トのA・B評価それぞれ90%以上)	教 師100%			地域においても先にあいさつできるように指導を重ねていただきたい。 ・ 保護者・地域の方々も積極的にあいさつを行い、地域全体であいさつ向上を目指していきたい。		がら、気になる児童については素早く対応を図っていく。
	② 場や相手に応じた心のもった元気なあいさつができるか(児童・保護者・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児 童100% 保 護 者 98% 教 師 50%	C				諸塚あいさつの日の取組やあいさつ週間の取組が、日常的・継続的な取組へと発展するように手立てを工夫していく。
(3) 環境美化の推進 ○ 無言清掃の徹底 ○ みどりの少年団活動の充実	① 無言清掃は徹底しているか(児童・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児 童100% 教 師100%	A		・ 無言清掃の取組は、今後も継続していただきたい。 ・ スクール・サポート・スタッフの活用も、きれいな学校環境づくりにつながっている。	A	現在の取組を維持し、本校の伝統となるように児童の意識をさらに高めていく。
	② みどりの少年団活動に取り組んでいるか(児童・教師アンケートのA・B評価それぞれ90%以上)	児 童100% 教 師100%	A	A			今後も地域人材との連携を図り、働くことの意義や、生産することの喜びを味わえる活動を目指していく。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和2年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【3 健康・安全の向上】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 体力向上プランに基づいた運動の習慣化 ○ 新体力テストによる体力賞取	① 運動に興味を持ち進んで運動や外遊びをするか(児童・保護者・教師アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児 童100% 保 護 者 100% 教 師 100%	A	A	・ 次年度、タブレット端末を活用した体力向上の取組を期待したい。	A	今後も学級や全校で遊ぶ日を設定し、外遊びに興味・関心をもたせ、屋外で楽しく体を動かすことを奨励する。

得50%以上	② 新体力テストによる体力賞の児童が45%以上を目指す。	※ 本年度コロナ感染症予防対策のため実施できなかった。					体力向上プランを意識した取組を実践し、今後も体力向上を目指していく。
(2) 望ましい食習慣の形成 ○ 諸塚学校給食の日を通した食に関する意識の向上	① 朝ごはんをきちんと食べているか(児童・保護者アンケートのA・B評価80%以上)	児童100% 保護者100%	A	A	・ 好き嫌いがあることは仕方がない面もあるが、継続して個別に指導を重ねていただきたい。	A	食育指導の充実を図るとともに、保健室前の掲示物等で基本的な生活習慣の大切さを啓発する。
	② 好き嫌いをせずマナーよく食べているか(児童・保護者・教師アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% 保護者97% 教師90%	A			A	今後も、給食指導や食育指導の充実を図り、食に対する意識の向上に努める。
(3) 健康診断等の結果を基にした計画的な指導 ○ むし歯治療及び予防の取組の強化	① 歯磨き等、むし歯予防の習慣化ができているか(児童・保護者アンケートのA・B評価それぞれ80%以上)	児童100% 保護者97%	A	B	・ コロナ禍で治療に行けず歯の治療率は低い結果となったが、保健便りや個別の治療勧告など、養護教諭の啓発は十分であった。 ・ 視力低下の児童も気になるので、目の指導も継続的に行ってほしい。	B	歯科衛生士によるブラッシング指導や歯科医師による講話等の活用を積極的に図っていく。
	② 歯の治療率85%を目指す。	治療率52.6%(1月現在) 10人/19人	C			B	学級通信や学級懇談等を使って治療の呼びかけを行うとともに、個別に治療勧告を配付し、治療率の達成を目指していく。
(4) 危機回避能力の育成 ○ 避難訓練等による安全意識・技能の向上	① 交通事故等にあう児童を1名も出さない。	交通事故0件	A	A	・ 不審者対応、地震、風水害、火災の4つの避難訓練を実施できてよかった。今後は専門家に来ていただき、猿出没の際に身を守る行動の仕方等につ	A	学級や全体の場において、具体的場面を想定した指導を行うことで、危機回避能力の育成を図る。
	② 避難訓練における児童アンケートで、主体的に動く児童の達成率80%を目指す。	アンケートの結果児童の達成率100%	A			A	避難訓練の方法や内容を全職員で吟味し、命を守る教育の充実を図る。

					いても身に付けさせて いただきたい。	
--	--	--	--	--	-----------------------	--

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和2年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【4 家庭・地域との連携】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者 評価	今後の改善策
(1) 地域素材の活用、 人材との連携 ○ 教育活動への 積極的な活用 ○ C学習の推進	① 地域素材・地域人材の全学年2回以上の活用を目指す。	低学年（秋さがし・役場、もろっこ ハウス見学等） 中学年（カヌー・水辺調査体験） 高学年（七ツ山加工グループの方との味噌造り） （せせらぎの里の方の説明） （木材加工センター見学） スマイル（Aコープ見学） （ミカン狩り体験）	A	A	・ コロナ禍で様々な行事が中止・規模縮小となった中で、関係機関との連絡・調整を行いながら、地域素材・地域人材を有効的に活用できたことはとてもよかった。今後も積極的な活用をお願いしたい。	A	総合的な学習の時間及び生活科の年間指導計画において、地域素材・人材の活用を図ることができる内容を見直すことで、より一層の活用を図っていく。
	② 学校は、児童に「ふるさと」のよさを感じさせているか（児童・保護者・教師アンケートのA・B評価80%以上）	児童100% 保護者100% 教師100%		A			地域人材との連携と地域素材の活用を図る中で、児童が諸塚のよさに触れる機会を積極的につくるとともに、活動の意義やねらいを伝えることで郷土愛を高めていく。

(2) 開かれた学校づくりの推進 ○ 定期的な情報発信(ホームページ、学校便り) ○ 地域に貢献できる活動	① 学校便り(月1回以上)、学級通信(週1回以上)を定期的に発行し、学校ホームページを週に1回以上は更新する。	児童 68% 保護者 100% 教師 100%	A	A	・ 児童への周知が足りなかったため、今後は学校においてホームページを一緒に見たり、全校朝会などで紹介したりしていただきたい。	A	今後も日々ホームページの更新を心掛け、学校の情報積極的に発信していく。また、学校便りについては、今後地域の方々にも発信していく。
	② 施設訪問・感謝集会・地域行事への参加等を通して地域に貢献できているか(児童・保護者アンケートのA・B評価80%以上)	※ <u>本年度コロナ感染症予防対策のため実施できなかった。</u>			/		先が見通せない状況が続くが、今後も総合的な学習の時間等を利用し施設訪問を行う。また、感謝集会や地域行事への積極的な参加を通して、地域への貢献ができるようにする。

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】

令和2年度諸塚村立諸塚小学校 学校評価書【5 特別支援教育の推進】

重点項目	達成状況指標	達成状況	自己評価		学校関係者コメント	学校関係者評価	今後の改善策
(1) 特別支援教育体制の整備・運営 ○ 校内研修、ケース会議等の充実 ○ 個の実態把握とそれに応じた指導の工夫	① 特別支援教育に関する研修会及び専門家チームの巡回相談を定期的(学期に1回)に行う。	○ 特別支援教育研修 ・ 夏季休業中(1回) ○ 専門家チームによる巡回相談 ・ 学期ごとに実施(計2回)	A	A	・ 個に応じた指導に対する達成状況は高く、児童と先生方との信頼関係が構築されていると感じた。しかし、児	A	学校・家庭・関係機関が連携することで、より効果的に児童の指導・支援が行える体制を工夫していく。

					<p>童のアンケート結果は100%には至らなかったため、今後はさらに一人一人の実態に応じた指導の充実を図り、100%を目指して取り組んでいただきたい。</p>	
	<p>② 学校は児童一人一人の個性と実態を理解し、それに応じた指導を行っているか（児童・保護者・教師アンケートのA・B評価90%以上）</p>	<p>児童 93% 保護者 94% 教師 100%</p>	A			<p>職員や保護者からの様々な情報を共有することで、個に応じた指導の充実を図っていく。また、専門家や関係機関との連携を図り、助言していただいたことを具体的な指導に生かしていく。</p>
<p>(2) 幼稚園や関係機関等との連携 ○ 定期的な情報交換</p>	<p>① 学校と幼稚園は双方の児童について職員が理解し、連携した指導を行っているか（保護者・教師アンケートのA・B評価90%以上）</p>	<p>保護者 94% 教師 100%</p>	A	<p>・ 幼小合同連絡協議会を通して、園児・児童の実態把握を合同で行っていることはよい取組だと感じた。また、本年度から持久走大会も幼稚園と合同で実施したが、大変盛り上がった大会となったので、今後も連携を図った取組を積極的に行っていただきたい。</p>	A	<p>幼小合同連絡協議会を通して、園児・児童の実態把握に努めるとともに、合同で行う行事を通してより一層の交流を図っていく。</p>

【A：期待（目標）以上の達成度、B：概ね期待（目標）どおりの達成度、C：期待（目標）を下回る達成度、D：期待（目標）にほど遠い達成度】